

令和8年度 富山市ガラス美術館協議会 協議要旨

日 時：令和8年7月29日（水）14：30～16：00

場 所：ガラス美術館6階レクチャールーム

出席者：協議会委員（敬称略）8名

秋元雄史（会長）、石田敬真、唐澤昌宏、笹倉優、外館和子、半田和義、
牧勇人、山下信義

ガラス美術館 11名

土田館長、北村副館長、石黒次長、三松館長代理、五十嵐副主幹、渡部主査学芸員
古澤主査学芸員、西田主任学芸員、米田主任学芸員、佐々木主任、櫻井学芸員

欠席者：無し

資料1 富山市ガラス美術館協議会概要等

- 1-1 富山市ガラス美術館協議会の概要について
- 1-2 富山市「ガラスの街づくり」の主な取組みについて
- 1-3 富山市ガラス美術館企画展について
- 1-4 富山市ガラス美術館基本方針

資料2 令和7年度富山市ガラス美術館事業実績等……………議事（1）

- 2-1 令和7年度富山市ガラス美術館の予算額及び決算額について
- 2-2 令和7年度富山市ガラス美術館の主要事業について
- 2-3 令和7年度TOYAMAキラリ公益施設入館者数及び
富山市ガラス美術館観覧者数について
- 2-4 令和7年度富山市ガラス美術館5階ギャラリー使用実績について
- 2-5 令和7年度公益施設内関連イベント実施状況について
- 2-6 来館者アンケート集計結果

資料3 令和8年度富山市ガラス美術館事業計画等……………議事（2）

- 3-1 令和8年度富山市ガラス美術館事業一覧について
- 3-2 令和8年度富山市ガラス美術館展覧会開催スケジュールについて

参考資料

- 1 ミュージアムショップ（2階）のオリジナル商品について
- 2 カフェ（2階）メニューについて

(協議要旨)

1. 開会 (司会進行：五十嵐副主幹)

2. 館長挨拶

3. 出席者紹介

4. 議事 (司会進行：秋元会長)

(1) 会長、副会長の選任について

(2) 令和7年度富山市ガラス美術館事業報告について (石黒次長から説明)

(3) 令和8年度富山市ガラス美術館事業計画について (石黒次長から説明)

5. 意見及び質疑応答

議事 (1) について

会長の互選・・・外館委員の推薦により秋元委員を選出

副会長の互選・・・秋元委員の推薦により外館委員を選出

議事 (2) について

(半田委員)

来館者アンケートについて、資料44ページの質問3にリピート回数を回答してもらう項目があるが、この結果が41ページからのアンケート集計結果に反映されていないと思うが。

(石黒次長)

ご指摘のとおり、資料に集計結果を掲載していなかった。

この場で正確なデータを申し上げることはできないが、観光目的で来館されるお客様が特に多く、肌感覚では約8割が観光客かと思う。

そのため、初めてのの方の割合も多いのではないかと考えていて、その中で、我々としてはリピートでまたお越しいただけるように、3か月ごとに企画展の展示替えをしながら、また来たいと思っていただけるようなことを続けていきたいと考えている。

(土田館長)

正確なデータは手元に持っていないが、いただいたアンケートの結果を見ている中では、やはり1回目の訪問だと回答される方が大多数だが、2回目よりも3、4回目と回答された方が次に多かったというふうに記憶している。

(笹倉委員)

来館者数40万人の大台を達成され大変良かった。NYタイムズ効果が大きかったと思う。

ガラス美術館は街の賑わい創出、活性化も担うということなので、主にこの観点から意見を述べたい。ただ、まず、決算資料で気になるのが、収入についての記載がないことだ。収入には本来の事業収入(美術館入場料)のほか、物販・サービス等の収入もあると思うが、適切な意見を述べるため、収入の内訳や変化率(前年度伸び率)は開示願いたい。

(石 黒 次 長)

14 ページに令和7年度決算額は掲載しているが、一番下にある5億9,600万円は支出の合計金額であり、収入はこちらに記載していなかった。

令和7年度の観覧料の収入は、企画展で一人1,200円、常設展のみで一人200円の観覧料をいただく中で、合計は約2億1,000万円の収入で、これを差し引いた残りの金額が、富山市の一般財源で補填していたということになる。

2階にミュージアムショップやカフェがあるが、これらは民間事業者に行政財産を貸し付けて、直接運営をしてもらっており、市には売上げの収入は入らない。

ミュージアムショップからは、美術館のお客が増えているので売上げも増えていると報告をいただいている。ショップも美術館の顔のひとつであるので、お客様が来館された際に何かお土産を買って帰るというのも、一つの大事なコンテンツかと思っている。

(笹 倉 委 員)

開示できるのであれば、ショップの売上実額を教えてください。

(石 黒 次 長)

令和7年度のショップの売上げは [黒塗り] ※ となっている。令和6年度が [黒塗り] ※ くらいなので、 [黒塗り] ※ の増となっている。

(※黒塗り部分は、当該民間事業者としての非公開情報)

(秋 元 会 長)

つまり、美術館の事業収入としては、入場料収入があり、カフェとショップは賃料のみということか。

(石 黒 次 長)

そうだ。(別途、光熱水費は負担いただいている。) 富山市の行政財産を貸し付けて、使用料をいただいている。

(秋 元 会 長)

今の数字を聞くと、来場者数をいかに増やしていくかが、全体収入に大きく影響があるのだと分かる。収入で支出全体の3分の1を賄えているというのは相当優秀で、公立美術館はなかなか厳しいので、よく健闘されていると思う。

(笹 倉 委 員)

ちなみに金沢の21世紀美術館はどんな状況か。目安として教えていただきたい。

(秋 元 会 長)

無料ゾーンが多いので、来場者数が200万人を超えていても、実際の事業収入が半分以下になるので、 [黒塗り] ※ 。ただ、金沢21世紀美術館は入場料収入だけでなく、駐車場収入も結構大きい。

(※黒塗り部分は当該美術館としての非公開情報)

(石 黒 次 長)

先ほどの笹倉委員の質問の中で言われた街のにぎわいについて少し触れさせていただくと、ガラス美術館の存在意義の一つに、中心市街地の活性化、街のにぎわい創出というものが大きな要素になっている。にぎわい効果というものはなかなか目には見えにくいもの

だが、美術館にこれだけ観光客を中心に人が集まっているということは、周辺の経済にもたらしている影響も多分にあるのではないかと考えている。

(秋元会長)

周辺への経済効果は数値として把握しているのか。

(石黒次長)

データとしては持っておらず、あくまで肌感覚である。

(秋元会長)

約40万人が来館し、8割が観光客ということであれば、相当、経済効果はあると思う。

(笹倉委員)

効果測定は厳密でなくとも、関連する統計数値を吟味すればおおよそ把握できるはずだ。

街の賑わいとは、人が集まり物品・サービスを消費、享受、かつ人が交流する状態と思うが、この点では、現在の西町・総曲輪・中央通りは昭和30、40年代と比べて、人流の激減は衝撃的である。往時は買い物客のほか、中高生など若者も多く大変賑やかであった。モータリゼーション、郊外での大規模商業施設、公的施設の移転などで市街地の空洞化が進み、さらに近年では市街地のコアも富山駅方向にシフトしているように見える。こうした趨勢のなかで、賑やかさ創出の役割を担うガラス美術館には意識的な施策が大事になる。NYタイムズ効果も必ずしも永続的ではないと自戒していたほうが戦略的には有効だと思う。問題はその活(い)かし方であろう。

早速手掛けていただきたいのは、ホームページ上での映像による紹介である。ネットでガラス美術館を検索すると第三者によるイメージ映像などは多く見られるが、美術館自身での語りかけがないようだ。映像のなかで、富山で設置された理由、経緯、特徴などナレーションを入れてしっかり説明してはどうだろうか。もちろん英語版も必要だ。

また、かつて西町・総曲輪・中央通りの賑わいは、映画館の果たす役割が大きかったが、ガラスを題材にした、あるいはかかわる映画を美術館や「ほとり座」で上映するなど関連する浸透策も考えられる。

もう一つは物品・グッズの製作・販売にかかわる事項だ。市のガラス関連3施設が今以上に結束して、物品・グッズの製作・販売に取り組んではどうか。現在、県が“寿司といえば、富山”との標語を掲げているが、であるならば、「富山のガラス食器で召し上がれ」ぐらいの連動ができないのかと思う。例えば、市内鰯店で提供される富山湾鰯については、プレートをガラス製にしてもらうなど、取り組みの考え方を整理し、県などと話し合ってはどうか。3施設個々に取り組むのではなく、県や経済界にも協力を呼びかけ、多様な「合わせ技」の発揮を心掛けてほしい。これは収入増もさることながら、むしろガラス関連3施設への認知度の向上にもつながると考える。

(石黒次長)

SNSも、映像もとても大事な時代であるので、検討する。

(土田館長)

今、頂いたご意見に関連して、富山県は“寿司といえば、富山”、富山市は“すしのまちとやま”ということで、少しフレーズは違うのだが、去年は富山ガラス工房が市内の寿司店舗10店舗にどんな皿を作ってほしいかを調査して、店舗が望んだ寿司の皿を提供した

というケースがある。であるので、まだまだ十分ではないけれども、取り組みを始めているところである。

また、映像に関しては、少し前に作成したことはあり、時々、グランドプラザにて放映しているが、富山市関連の映像の中で順番に流れるものであるので、タイミングによっては遭遇しない（見ることができない）ということもある。

昨年、ガラス美術館単独の展覧会とは別に、工房や研究所と連携して制作した動画を流したりもしたのだが、なかなか目につかないという問題がご意見を頂いて分かったので、もう少し改善していきたいと思う。

議事（３）について

（半 田 委 員）

企画展を含めた年間パスポートの利用について検討してもらえないか。私は、県水墨美術館や県美術館の年間パスポートを利用しており、一回ごとの観覧料を気にすることなく、何度でも利用することができるので、美術館をより身近に感じるようになった。

本館においても観覧料減免等により来館促進に取り組まれているが、企画展を含めた年間パスポートのようなものがあれば、魅力ある企画展を繰り返し鑑賞できるきっかけになる。また、併設の図書館を訪れた方が、美術館に足を運ぶ機会が増え、新たな来館者の拡大にもつながると思う。より多くの方に来館いただくための取組の１つとして検討してほしい。

（石 黒 次 長）

パスポートについて、ガラス美術館単独でのものは現在設けていないが、県内の文化施設に利用できる３日間または年間の共通パスポートというものがある。ガラス美術館単独のパスポートを導入することについては、今後検討させていただきたい。

（半 田 委 員）

高齢の方は「おでかけ定期券」を活用しているが、若い方にもそのようなものがあればよいと考え、発言したところである。

（秋 元 会 長）

ガラス美術館は友の会制度を設けていないのか。

（土 田 館 長）

今のところ友の会制度は設けていないのだが、これまでも議論には上がっている。

コロナ禍だったことや、観光の方が８割という面もあるので、議論が上がっては消えるという状況が続いている。

また、パスポートを導入した場合の作業量等を考えながら、検討させていただきたいと考えている。

（秋 元 会 長）

今の話を聞いていると、パスポートや友の会を設けることを考えてもよいのではないかなと思う。来館者の２割の地元の方はリピート率が高いという話もあったので、もしかすると有効に働くと思う。

(唐澤委員)

様々な関連イベントを実施されているが、本協議会の資料に、どのくらいの参加者があったのかといったことや、体験ワークショップは有料だと思うが、そういったことも今後、記載してもらえるとよいと思う。

(土田館長)

今回の資料には記載していなかったもので、次回から記載する。

(山下委員)

触って体験できるスクールプログラムという活動はとても良いと思う。

令和6年度の体験を見させてもらって、子供たちが驚いていたのは、同じガラス作品でも、見方、角度、光の当たり具合によって違うという説明を学芸員から聞いたことだった。何か自分で本当にそうなのか確かめられるものがあればよいと思って聞いていた。

令和8年度の新しいスクールプログラムにもそういった体験があるのか。

(石黒次長)

8年度のスクールプログラムにおいても触れる素材は使っており、見た目や重さをじかに感じ取ってもらえるような体験ができるようになっている。

展示室で様々な作品を見ていただいた後、8人くらいのグループに分かれて自分の好きな作品について意見を発表するという機会も設けている。当館で作成したワークシートに書き込むことで発表しやすくなることもしながら、自分の意見を話す。

それを聞いた周りの子たちも、そういう見方があるのだということも含めて気付きの場になっている。既に体験を終えられた学校からのアンケート結果を見ると、子供たちなりの素直な感想がいくつもあって、見直してよかったと感じたところである。

(土田館長)

触れるキットは15セット用意しており、小学生を班分けし、1つの班に1つずつ行き渡るよう準備しており、子供たちの待つ時間がないように工夫している。最初に立ち上げたスクールプログラムの目的は、まずは子供たちにガラス美術館に来てもらい、どんな所かを見てもらおうと、その上で、ガラスアートの良さが分かってもらえれば、何かを発見してもらえればありがたいというスタンスで始めたのだが、今年度からは一つの作品をじっくり見てもらうという方向性にシフトした。

アンケートを拝見すると、やはり良い意見もあれば、前の方が良かったという意見もあったので、すべての方の満足を得るというのはなかなか難しいかもしれないが、多様な意見を取り入れながら、いろいろな角度から楽しんでもいただけるプログラムを続けていきたいと思っている。

(牧委員)

富山の美術関係は、単独で頑張っているものがたくさんあるが、つながりがあまりないのではないと思う。例えば、私は、なぜ富山がガラスで有名なのかを知らなかったのだが、富山の薬が関係していることを最近になって知ったので、そういった関連したものと、子供たちにもつながりが見えてくるのではないと思う。八尾の和紙も薬と関連している。良い意味で「グル」になって進めていくと、つながっているから行ってみようという方も増えてくるかなと思う。

(笹 倉 委 員)

土田館長には、ぜひホームページの紹介映像のなかで、数分で良いからガラス美術館の役割、特徴などを文字情報でなく話し言葉でしっかり発信してほしい。映像は長いと見られないので、最大12、13分であろう。

あと、来年度の資料では事業収入の実額や内訳、また関係数値などをあらかじめ提示されると適切な意見をつけやすいので念押ししておきたい。

また、ガラス美術館への寄付金については税額控除される仕組みなどはあるか。なければご検討願いたい。他府県の多くの美術館や博物館などで設けられていると思う。

なお、議事録は公開前にあらかじめ委員にも見せてもらいたい。

(石 黒 次 長)

議事録自体は今後、館HPで公開する形になるので、委員の皆様にもお送りして見ていただくということにさせていただきたい。

(外 館 委 員)

ガラス美術館は非常に充実した活動をしており、あらゆる面で努力の跡が見受けられる。

カフェで使用する器について、例えば、ガラス作家の誰々の作品(器)だというのが分かるような提供の仕方をすると、お客さんに喜ばれ、作家や作品の理解にもつながると思うので、検討してほしい。

他館で陶芸家の器を組み合わせでランチなどを提供したら大好評で、レストラン目的で来る方もいたと聞いた。ガラス美術館でも作家物の器をカフェで取り入れる工夫をしてみよう。ガラス工房や造形研究所もあるし、協力いただける作家もいるかもしれない。

また、ガラス美術館はまちなかにあり、日常の中で立ち寄れるので、市内でのいろいろな連携は大事だ。加えて、東京から来る人間からすると、北陸新幹線は富山・金沢がセットというイメージもあり、富山と金沢が連携して、北陸という地域を利用する考え方もあると思う。

最後に、多摩美術大学教員としての意見だが、多摩美術大学は日本で最初に大学教育の中にガラスを位置付けた大学であり、ちょうど2027年がガラス教育開設50周年になるので、協力・連携したワークショップやイベント等ができれば、大学もだが、ガラス界としても盛り上がると思う。

(土 田 館 長)

最初にご指摘いただいたカフェの件だが、ぜひとも検討していきたいと思う。

前に入っていた不室屋の時は、「高橋禎彦展」の時には作家の高橋さんの器での特別ドリンクの提供もしていたのだが、店舗が変わってからは、そうした活動がストップしていた。

我々も富山のガラス作家の器をぜひ使っていただきたいと思っているので、前向きに進めていきたいと思う。

また、牧委員からご指摘のあった製薬との関連の件については、昨年、コーニング・ガラス美術館の館長が来られた際に、「なぜ富山でガラスなのか」という地域コミュニティとの関連をもっとはっきりと、小さなケースで良いので展示スペースを設けたらどうかとの意見をいただいている。

なぜ富山市がガラスなのかという部分を美術館の中でも明確に打ち出していくように検

討していきたいと思う。

金沢との関連については、富山は立ち寄ってはいただけるが、宿泊は金沢でという方が多いので、連携できるものがあれば連携し、富山に一泊、金沢に一泊となればよいと思う。

(石 田 委 員)

観光客がこれほどたくさん来ているというのは素晴らしいことだが、地元の人は意外とガラス美術館は知っていても足を運んでいない、意外と中心街に来られないというのが現状かと思う。

拠点の三者でうまく協力して進めていきながら、皆さんの意見を利用していけば、来館者が増えている良い流れをもっと良い展開にできる方法があると思う。

今回、皆さんから良い意見がたくさん出たと思うので、ぜひ参考にしていきたい。

(土 田 館 長)

貴重なご意見に感謝する。

今年度、富山市のガラスの街づくりプランを改定する予定となっており、大きく方向性を変更する訳ではないが、例えば、もっと三者が連携していくにはどうするかや、地理的な距離の問題をどう埋めていくかなどといった課題を改善していこうということで、今、ガラスの街とやまの今後のビジョンについて検討している。

皆様からの貴重なご意見をぜひ反映していければと思っている。

6. 閉会

(以上)